

障害者同士が交流

阿蘇でパン作りや自然満喫

北九州市戸畑区の地域活動支援センター「アベック」で働く知的障害者8人と指導員3人が、29日まで2泊3日の「宿泊訓練」で阿蘇市を訪れた。地域活動支援センター「夢屋」(同市一の宮町宮地)に通う知的障害者や身体障害者とパーティーやパン作りで交流し

北九州市から参加

た。アベックの柴原良子代表(66)らは29日、夢屋を訪れた。ここでは普段、メンバーがパンを手作りし、配達している。夢屋の宮本誠一代表(45)の手ほどきで、一行は思い思いの形のパンを焼いた。夢屋のメンバーも「上手にできてる」と声をか



け、昼食のピザを一緒に作った。

一行は27日から、夢屋が運営する障害者・高齢者宿泊所「野菜t-y」に泊まって自炊を経験。仙酔峡で川遊びし、中岳火口を見物して、阿蘇の自然を満喫した。また、夢屋の人たちと一緒に焼き肉パーティーを楽しんだ。

柴原さんが会長を務めるボランティアグループに、宮本さんが学生時代に参加していた縁で交流が実現した。

宮本さんは「障害のある人たちを迎え、頼られることで自尊心が生まれた。積極的に手伝おうという意欲が見えた」と話す。アベックでは日頃、くきやポルトの袋詰め作業をしている。柴原さんは「自分とは違う仕事をしている障害者を見れば、自分にもできるといふ意識の高揚につながる」と話した。メンバーも阿蘇が気に入って、来年も訪れるつもりだという。

一緒にピザに盛りつけする「夢屋」と「アベック」のメンバーら。阿蘇市一の宮町宮地の夢屋で